

長崎構想区域の状況（平成30年度）

具体的対応方針

1 役割（・・・特に地域において担うべき役割、・・・地域において担うべき役割）

		がん	脳卒中	心疾患疾病		糖尿病	救急	災害	へき地	周産期	小児	在宅	議論の状況
				急性期	回復期								
長崎大学病院	2018												協議済
	2025												
長崎みなと メディカルセンター	2018												協議済
	2025												
済生会長崎病院	2018												協議済
	2025												
長崎原爆病院	2018												協議済
	2025												
長崎病院	2018												協議済
	2025												

2 病床数（2017年・・・平成29年度病床機能報告(平成29年7月1日時点)、2025年・・・公的医療機関等2025プラン）

		合計	高度	急性期	回復期	慢性期	休棟中等	介護等	議論の状況
長崎大学病院	2017	812	812						協議済
	2025	827	827						
長崎みなと メディカルセンター	2017	494	54	440					協議済
	2025	494	53	441					
済生会長崎病院	2017	205	12	193					協議済
	2025	205	12	193					
長崎原爆病院	2017	350	8	342					協議済
	2025	315	6	309					
長崎病院	2017	280			137	143			協議済
	2025	280			168	112			

【共通項目】

今後も2025年に向け、「公的医療機関等2025プラン」内の具体的な対応方針については、構想区域内の医療機関の診療実績や将来の医療需要の動向を踏まえて、毎年、地域医療構想調整会議において協議を行い、必要に応じて見直しを行う。

この際、将来の病床数の必要量を見極めながら、公的医療機関等と民間医療機関の役割分担について、公的医療機関等でなければ担えない分野に重点化されているか確認するものとする。

なお、地域医療構想を進めていくに当たっては、医療機関の主体的な取組みや地域住民の協力が不可欠であることから、個別医療機関ごとの医療機能や診療実績、各種補助金や繰入金等について公表していく。

（協議事項）

- ・公的医療機関等と民間医療機関の役割分担（医療機能の変更等）
- ・将来の病床数の必要量を踏まえた取組み

病院名	自施設の現状	自施設の課題	今後の方針	具体的な計画 (4機能の病床のあり方) 【一般病床+療養病床】																		
				地域において今後担うべき役割		H28報告	→	2025														
長崎大学病院	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療連携センターの人員を拡充し、地域の医療機関との連携強化と紹介患者の増加に努める一方、症状が安定した患者を地域の医療機関へ紹介しており、平成28年度の患者紹介率は72%、逆紹介率は111%。 入院患者の24%は、長崎区域以外からの入院であり、長崎県内に移植や再生などの高度な医療を提供するとともに、“最後の砦”としての機能を発揮。 平成28年度の平均病床稼働率は、86.3%であり、平成29年度はさらに増加している。 研修医の獲得に努めており、平成29年度研修医マッチ者数は、全国12位(国立大学病院7位)。 外国人医師及び医療従事者の研修受入れなどの国際貢献を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 一日あたりの医療資源投入量が3,000点以上か否かを基準に、高度急性期と急性期の線引きを行っているが、一つの病棟に両区分の患者が混在していることより、現時点では病棟毎の両病床機能の明確な区別は困難(今後のプラン検討で、転換する可能性)。 総合周産期母子医療センターの開設(2019年)に伴い、15床増床する予定であり、純増とするかは、検討が必要(厚生労働省の認可済み)。 	<ul style="list-style-type: none"> 県内唯一の特定機能病院、地域の中核病院として最高水準の医療を提供し、医療人を育成する役割があり、今後も高度急性期及び急性期機能を担う。 将来の当院の専門的機能を見据えた計画的な診療機能の強化を図る(診療科横断的なセンターの推進等)。 様々な医療上のニーズを持つ患者へ対応するため、難度の高い急性期医療を提供する機関としての組織拡充と総合的な診療体制の強化を図る。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">総合周産期母子医療センター設置による増</div>	<table border="1"> <tr><td>高度</td><td>812</td><td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">病床増</td><td>高度</td><td>827</td></tr> <tr><td>急性</td><td>-</td><td>急性</td><td>-</td></tr> <tr><td>回復</td><td>-</td><td>回復</td><td>-</td></tr> <tr><td>慢性</td><td>-</td><td>慢性</td><td>-</td></tr> </table>	高度	812	病床増	高度	827	急性	-	急性	-	回復	-	回復	-	慢性	-	慢性	-
高度	812	病床増	高度	827																		
急性	-		急性	-																		
回復	-		回復	-																		
慢性	-		慢性	-																		
長崎みなとメディカルセンター	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画において救急医療、高度・急性期医療、小児・周産期医療、政策医療を医療の柱とし、地域医療支援病院として、かかりつけ医や在宅施設等と連携しながら、地域ネットワークの中心的役割を担っている。 公的機関として市民に幅広く医療情報の提供や健康増進を促すとともに、地域の医療従事者や、研修生等への教育も積極的に実施。 高度・急性期医療：新病完成により手術件数は年々増加。 小児・周産期医療：32週未満の受入は減少。 感染症・結核：旧成人病センターから引き続き実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 救急医療体制の充実 救命救急センターを設置するための体制整備を実施し、大学病院や輪番病院との連携を再構築する必要。 周産期医療の充実 NICU受入件数が年々増加(32週未満の受入は減少)しているの で、総合周産期母子医療センターや地域医療機関と連携し、更なる周産期医療の強化を図る。 認知症への対応 高齢化が進み、当院においても認知症患者が増加しているため、2017年度から認知症サポートチームを設置し、対応を開始。 	<ul style="list-style-type: none"> 救急医療 ウォークイン患者から重症患者までを受け入れる救命救急センターを設置し、ドクターヘリの受け入れも継続的に行い、長崎大学病院が予定している高度救命救急センターや輪番病院、消防機関と連携して、救命率の向上を図る。 高度・急性期医療 心疾患、脳血管疾患等早急な対応が必要な患者に対し、ホットラインの継続的な運用やドクターカーの検討など、地域の医療機関と連携し、急性期医療の中心的役割を果たしていく。地域がん診療連携拠点病院として、引き続きがん診療を強化。 	<table border="1"> <tr><td>高度</td><td>54</td><td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">現状維持</td><td>高度</td><td>53</td></tr> <tr><td>急性</td><td>440</td><td>急性</td><td>441</td></tr> <tr><td>回復</td><td>-</td><td>回復</td><td>-</td></tr> <tr><td>慢性</td><td>-</td><td>慢性</td><td>-</td></tr> </table>	高度	54	現状維持	高度	53	急性	440	急性	441	回復	-	回復	-	慢性	-	慢性	-	
高度	54	現状維持	高度	53																		
急性	440		急性	441																		
回復	-		回復	-																		
慢性	-		慢性	-																		
済生会長崎病院	<p>済生会病院の使命</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活困窮者支援の積極的推進 地域医療への貢献 医療と福祉に関する総合的な切れ目のないサービスの提供 <p>急性期医療の提供により、整形外科、脳神経外科、循環器内科等長崎医療圏における輪番病院の中核的存在として認知されている。特に産婦人科は、国内トップクラスの診療実績。</p> <ul style="list-style-type: none"> H29年4月に病棟再編を実施(7:1病棟の再編、包括ケア病床) 	<ul style="list-style-type: none"> 区域内における急性期を中心とした病病連携の強化 地域医療支援病院としての機能充実 在宅支援の強化 地域包括ケア病床に期待される4機能の充実(レスパイト等) 在宅療養支援病院・診療所に対する後方支援 医療機器の更新 	<ul style="list-style-type: none"> 無料定額診療事業の推進による生活困窮者の積極的な支援 充実した救急医療の24時間提供(輪番病院の中心的役割) 積極的な高度専門医療の提供 積極的な在宅訪問医等の後方支援 地域包括ケア病棟を積極的に活用した地域貢献 次世代の地域医療を担う研修医・修練医の教育 災害拠点病院としての使命 	<table border="1"> <tr><td>高度</td><td>12</td><td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">現状維持</td><td>高度</td><td>12</td></tr> <tr><td>急性</td><td>193</td><td>急性</td><td>193</td></tr> <tr><td>回復</td><td>-</td><td>回復</td><td>-</td></tr> <tr><td>慢性</td><td>-</td><td>慢性</td><td>-</td></tr> </table>	高度	12	現状維持	高度	12	急性	193	急性	193	回復	-	回復	-	慢性	-	慢性	-	
高度	12	現状維持	高度	12																		
急性	193		急性	193																		
回復	-		回復	-																		
慢性	-		慢性	-																		
長崎原爆病院	<ul style="list-style-type: none"> 現在、新病院の建築を進行中であり、現在稼働中の350床(高度急性期8床、急性期342床)を平成32年度グランドオープン時には、315床(高度急性期6床、急性期309床)に減床する。 現在地域包括ケア病棟を設置している他、平成30年度には、訪問看護ステーションの開設も予定するなど、地域医療構想実現に向けた独自の取組みを推進。 	<ul style="list-style-type: none"> 長崎医療圏は医療機関数が多い区域であり、特に長崎市内においては、当院も含めがん、脳卒中、心筋梗塞等の医療をすべて一つの病院で提供する「総合型」病院が多く見られる。 医療機関相互の役割の整理や「機能分化」の在り方が課題となっており、当院においても今後「病病連携」や「病診連携」にいかに取り組みでいくかが課題。 	<p>地域における急性期中核病院として役割を担うとともに、原子爆弾被爆者のがん診療および生活習慣病・高齢疾患を中心とした診療体制による被ばく者の健康管理及び赤十字病院としての社会的使命を果たしていく。</p>	<table border="1"> <tr><td>高度</td><td>8</td><td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">病床減</td><td>高度</td><td>6</td></tr> <tr><td>急性</td><td>342</td><td>急性</td><td>309</td></tr> <tr><td>回復</td><td>-</td><td>回復</td><td>-</td></tr> <tr><td>慢性</td><td>-</td><td>慢性</td><td>-</td></tr> </table>	高度	8	病床減	高度	6	急性	342	急性	309	回復	-	回復	-	慢性	-	慢性	-	
高度	8	病床減	高度	6																		
急性	342		急性	309																		
回復	-		回復	-																		
慢性	-		慢性	-																		
長崎病院	<p>急性期病院では担えない次の4つの領域を中心に医療を展開</p> <p>急性期病院で初期治療を受けられた方を受け入れ、在宅へつなぐ脊損、神経難病の方の社会復帰とレスパイトにも対応</p> <p>重症心身障害児(者)の方々の医療と療育</p> <p>発達障がい、小児心身症</p> <p>重症心身障害児(者)の医療は、今年8月に病床を91床から112床に増床し、今後、指定障害福祉サービス事業の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 重症心身障害病棟を増床したが、昨今の重症心身障害医療の中心は在宅医療へシフトしており、将来的な入所希望者が20名程度いるが、今直ぐの入所は厳しい状況。 重症心身障害医療を担う医師確保が課題となっており、小児科医師の確保については引き続き関係機関と協議。 	<ul style="list-style-type: none"> 重症心身障害等の慢性期病床として専門的な医療・療育を提供し、地域の中でセイフティーネットとしての役割を十分に果たしていく。 指定障害福祉サービス事業(療養介護、医療型障害児入所施設、生活介護、児童発達支援、放課後等デイサービス)においても積極的に実施。 	<table border="1"> <tr><td>高度</td><td>-</td><td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">現状維持</td><td>高度</td><td>-</td></tr> <tr><td>急性</td><td>-</td><td>急性</td><td>-</td></tr> <tr><td>回復</td><td>168</td><td>回復</td><td>168</td></tr> <tr><td>慢性</td><td>112</td><td>慢性</td><td>112</td></tr> </table>	高度	-	現状維持	高度	-	急性	-	急性	-	回復	168	回復	168	慢性	112	慢性	112	
高度	-	現状維持	高度	-																		
急性	-		急性	-																		
回復	168		回復	168																		
慢性	112		慢性	112																		